

機関番号：43708

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2004～2009

課題番号：16520121

研究課題名（和文） 斎宮歴史博物館所蔵文学関係資料の調査と研究

研究課題名（英文） Survey and research of literary materials in Saiku Historical Museum

研究代表者

木戸 久二子 (KIDO Kuniko)

東海学院大学短期大学部・児童教育学科・准教授

研究者番号：20269624

研究成果の概要（和文）：本研究では、三重県立斎宮歴史博物館（三重県多気郡明和町）の所蔵する文学関係資料を閲覧・調査し、その分析と研究を行った。対象を『伊勢物語』関係資料、『源氏物語』関係資料、三十六歌仙関係資料に分け、絵に描かれた場面の確定、詞書の翻字等に加え、近似資料との比較検討を試みた。場面の選択や構図は定型化・固定化しているが、その中で独自の性を探り、文学享受の観点から、物語本文とのずれや拡大解釈等を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study involved the viewing, investigation, and analysis of literary documents in the collection of Saiku Historical Museum (Meiwa-cho, Taki-gun, Mie). The documents were divided into three categories: documents relating “The Tale of Ise”, those relating “The Tale of Genji”, those relating to the sanjurokkasen (the thirty-six excellent tanka poets). The scenes illustrated in pictures were identified, texts were transliterated, and the other documents were compared with other similar materials. The choice of scenes and their composition tended to be conventional or stereotypical, but the study also examined cases of originality. From the standpoint of literary reception, it was possible to identify cases where there were differences between the narrative text, the headnotes, and illustrations. Cases where the text had been freely interpreted were also found.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2004年度	800,000	0	800,000
2005年度	124,822	0	124,822
2006年度	675,178	0	675,178
2007年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,600,000	300,000	2,900,000

研究分野：国文学

科研費の分科・細目：(2901) 国文学

キーワード：国文学、美学、美術史、斎宮歴史博物館、所蔵品、屏風絵、伊勢物語絵、源氏物語絵、色紙絵

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

本研究者は平成13（2001）年7月1日から平成15（2003）年3月31日までの1年9か月間、三重県立斎宮歴史博物館の嘱託研究員（国文学担当）を務めた。その際は『伊勢物語』関係資料、特に屏風の調査・研究を主に行ったが、その成果を踏まえてさらに調査を続け、研究を深めたいとの希望があった。

2. 研究の目的

本研究は、三重県立斎宮歴史博物館（三重県多気郡明和町）の所蔵する資料の中で、特に文学関係の資料を閲覧・調査し、分析と研究を行うことを目的としている。本研究者が当博物館の嘱託研究員（国文学担当）を務めた際の成果を踏まえつつ、『伊勢物語』関係資料、『源氏物語』関係資料、三十六歌仙関係資料を中心に、文学的アプローチからの調査・研究を行っていく。

3. 研究の方法

(1) 閲覧・調査

- ① 研究期間の年度ごとに閲覧・調査の対象資料を『伊勢物語』関係資料、『源氏物語』関係資料、三十六歌仙関係資料に分け、資料収集するために、デジタル・カメラでの撮影を行い、その後、パーソナル・コンピュータに画像を取り込む。
- ② 対象資料と近似したり、影響関係が推定できたりする資料の閲覧・調査を行い、データを収集する。
- ③ 当初、資料の閲覧および撮影に予想以上の手間と時間がかかったことから、研究期間の前半は研究協力者（緑川 眞知子・関東学院大学非常勤講師、ワトソンマイケル・明治学院大学教授、林 紕さ子・元東海女子大学助教授）を頼み、同行してもらったり別個で撮影してもらったりして資料データの収集を行った。
- ④ 研究期間の後半は、斎宮歴史博物館側から資料データを提供していただける事例が生じたので、可能な限りそれを利用するようにした。

(2) 分析・研究

- ① 収集した資料データにより、和歌や物語本文については翻字を行ってその校異を調べ、本文系統を明らかにした。
- ② 物語絵に関しては、描かれている場面の認定および近似資料との比較検討を行った。
- ③ 本研究の対象となる資料が主に制作された江戸時代には、絵画化する場面の選択や構図は定型化・固定化していたと考えられるが、その中での対象資料ごとの独自性を探る。特に文学享受の観点から、物語本文とのずれや拡大解釈等を考察した。

(3) 付記

当初は2004年度から2007年度までの4年間の研究計画であったが、育児休業のため、2005年8月1日から2006年3月31日までと2008年度の2回、研究を中断した。よって、2004年度から2009年度までと、計画より研究完了が2年延びたことをお断りしておく。

4. 研究成果

(1) 『伊勢物語』関係資料

- ① 『伊勢物語』の写本3冊（登録番号140、160、297）にはいずれも流布本系の奥書が付いているが、細かい本文異同を検討すると、どれも単純に流布本といえるものではなく、種々の本文の特徴が入り混じっている本であることがわかる。なお、中の1冊（登録番号160）はかなりひどい錯簡を有していることが判明した。
- ② 「伊勢物語絵巻」3巻（登録番号298）は、伊勢物語絵の場面選択や構図の定型化・固定化が顕著であった時代において、その枠に収まらない独自性を有する。とはいえ、絵のすべてが独自のものとは到底考えられないので、他の伊勢物語絵との比較検討を行った（東京国立博物館蔵「伊勢物語絵巻(模本)」3巻、ニューヨーク市立図書館・スペンサーコレクション蔵「伊勢物語小絵巻」3巻、同コレクション蔵「大型絵入本伊勢物語」4冊、チェスタービーティ図書館蔵「大型絵入本伊勢物語」等）に関しては、実際に閲覧した。なお、スペンサーコレクシ

ョンは明治学院大学教養教育センター非常勤講師・緑川眞知子氏に依頼)。

挿絵を有する章段や段ごとの挿絵の数が嵯峨本等とは異なる部分があり特徴的で、チェスタービーティ図書館蔵「大型絵入本伊勢物語」および海の見える杜美術館蔵「伊勢物語絵巻」との共通点を見出せる。三本の中に直接的な親子関係は認められそうにないが、斎宮歴史博物館本は最も時代が下がる作品でありながら、祖本の性質を一番残す伝本と考えられる。チェスタービーティ図書館本は物語終わり近くになると絵の位置に混乱を生じているが、それを正すことが斎宮歴史博物館本によって可能になる。

斎宮歴史博物館本の大きな特徴として、嵯峨本が一図のみの第69段の絵が四図も描かれていることがあげられる。この第69段に絵を複数場面有する伝本には東京国立博物館蔵「伊勢物語絵巻(模本)」3巻があるが、残念ながら両者に何らかの関係性を見出すことはできなかった。

- ③ 伊勢物語絵についての研究成果を踏まえ、嵯峨本挿絵の第一段から第五段について、その成立に関する考察を行った(雑誌論文③)。
- ④ 「伊勢物語図屏風」(登録番号168)は、嵯峨本を初めとする普通の伊勢物語絵にはない第121段の絵を有し、さらに現代の解釈とは異なって男同士の歌の贈答と解して男二人を描くのが特徴である。明治学院大学教養教育センター非常勤講師・緑川眞知子氏の調査により、ニューヨーク市立図書館・スペンサーコレクション蔵「大型絵入り本伊勢物語」の第121段の絵も、男同士の歌の贈答ととらえているのが明らかになった(学会発表①、雑誌論文④⑥)。

(2) 三十六歌仙関係資料

三十六歌仙関係資料については、歌が添えられているもののみを取り上げ、まず歌を翻字し、その歌仙のどの歌が採られて書かれているかを確認した。その後、資料によって添える歌にどの歌を選んでいるかの比較を行った。

(3) 『源氏物語』関係資料

源氏物語絵色紙貼交屏風(登録番号B00

333)の物語本文について、翻字を行ってその校異を調べ、本文系統を明らかにした。なお、すでに翻刻が存在しているが、間違いが少々見られるようであったので、その訂正ができたかと思う。

絵に関しては、まず描かれている場面の認定を行った。場面の選択や構図は定型化・固定化しているので場面認定は容易だが、絵と詞書の採択場面のずれに注目した。また、土佐光吉筆の近似資料(京都国立博物館蔵「源氏物語画帖」や和泉市久保惣美術館蔵「源氏物語手鑑」を中心に)との比較検討を行い、場面選択の違いや同じ場面であっても構図の細かい面ではかなり異なることを確認した(雑誌論文①②)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

- ① 木戸久二子、斎宮歴史博物館蔵源氏物語図色紙貼交屏風について(下)、東海学院大学短期大学部紀要、査読無、第37号、2011、pp.
- ② 木戸久二子、斎宮歴史博物館蔵源氏物語図色紙貼交屏風について(上)、東海学院大学短期大学部紀要、査読無、第36号、2010、pp.1-11
- ③ 木戸久二子、嵯峨本伊勢物語の挿絵をめぐって(一)、三重大学日本語学文学、査読有、第18号、2007、pp.23-28
- ④ 木戸久二子、斎宮歴史博物館蔵の伊勢物語図屏風について、斎宮歴史博物館研究紀要、査読無、第12号、2003、pp.31-36
- ⑤ 木戸久二子、斎宮歴史博物館蔵伊勢物語図色紙貼交屏風について、東海学院大学短期大学部紀要、査読無、第29号、2003、pp.(1)-(12)
- ⑥ 木戸久二子、斎宮歴史博物館蔵伊勢物語図屏風について一第百二十一段を中心に、三重大学日本語学文学、査読有、第13号、2002、pp.47-58

[学会発表](計1件)

- ① 木戸久二子、*Tales of Ise*, section 121: textual interpretation, ancient commentaries, pictures、The Tenth Asian Studies Conference Japan、2006年6月24日、国際基督教大学(東京都三鷹市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木戸 久二子 (KIDO Kuniko)
東海学院大学短期大学部・児童教育学科・
准教授
研究者番号：20269624

(2) 研究協力者

緑川 眞知子 (MIDORIKAWA Machiko)
明治学院大学・教養教育センター・非常勤
講師
研究者番号：

林 紕さ子 (HAYASHI Hisako)
元東海女子大学・美学美術史学科・助教授
研究者番号：